平成 30 年度　大台町地方創生会議　会議録

日時　H30.6.15　14-16 時
場所　就業改善センター

１．出席者
〇委員　西村座長、小野委員、石川委員、高橋委員、井上委員、野田委員、寺本委員、
　　遠藤委員、森本委員、（欠席委員）大松委員、呉山委員
〇説明課長　谷産業室長、楢井産業課長、湯谷健康ほけん課長、西本教育課長、辻本企画課長
〇出席課長　片田町民福祉課長、加藤生活環境課長
〇事務局　企画課　辻本課長、岡本

２．町長挨拶
皆さんこんにちは。大台町長の大森です。本日は、大変お忙しい中、ご出席頂き誠にありがとうございます。
みなさまには、大台町地方創生会議の委員として、また、日頃より各方面においていろいろな形でご尽力を頂いておりますこと、心より感謝を申し上げます。後になりましたが、西村先生には、この会議の座長としてご協力を頂いており、改めてお礼申し上げます。

平成 27 年度より　みなさんにご参画を頂いております　この地方創生の取り組みは、今年ですでに 4 年目ということになってまいりました。これまでの取組みを、もう一歩も二歩も先へと前進をさせていきたい、時代に流されないブレない取組みへと深化させていきたいという、強い思いはありますが、一方で、町の財政は、私が予想していた以上に厳しく、財源の確保ができないと、なかなか次の一手を打てないということで、頭の痛いところでもございます。

日本全体の人口が減少するなかで、地方創生が、単に、人口減少対策という見方となって、地方同士での人口の奪い合いや、ふるさと納税など税収の奪い合いのようなことが起きているという側面もありますが、大台町については、そういうことにあまり左右されない考え方を元に、戦略を作っていこうということで、知恵を絞って頂いたとも聞いております。

これからもこの地域が持続していくためには、少なからず民間のみなさんはじめ、いろんな立場や見識を持つ方々と、協力・連携体制をとりながら進めていかなければならないと考えております。
本日は、課長も出席をさせて頂いております。皆さん方には、率直にご発言を頂いて、何か次への進展への気づきにつながればと期待しておりますので、どうぞよろしくお願いします。

３．会議の進行
〇H29 年度までに実施をした事業（資料２、３）について課長より説明を行い、続いて委員から意見、座長から講評を頂いた。

４．委員による評価検証

西村座長
一気に説明があったので、疑問に思うことや質問などもあってもいいのかなと思いますので、気づいたところで何かあればということでそれぞれにお伺いしたいと思います。

小野委員
聞かせてもらっていて思ったんですが、産業課の奥伊勢米やえごまオイルは、道の駅以外ではどんなところで販売をしているのでしょうか。

産業課長
えごまは、スマイルとフォレストピア、直接シルバーセンターにも置いてます。、去年はＪＡの景品でたくさん使ってもらったので、春から夏までの間になくなりましたが、これからは、販路をどのように確保していくかが大事であると思っています。

西村座長
小野さんが質問した後ろには、（えごまの商品が売られているところを）あまり見かけないということがあるんでしょうか。

小野委員
個人的に生協をやってますが、チラシに出てくる商品をみていると、〇〇さん家の〇〇とか鳥羽市の加茂牛とかいう感じで、商品名の横に地名とかが出ている商品が意外とたくさんあって、中には大台町の土田さん家のお茶というのも出ていたりします。えごま商品も生協とタイアップすれば、東海三県の多くの方がチラシを見るので、一気に販路が増えるんじゃないかなと思いました。こういうのへ載せようと思うとある程度の生産量がいると思うんですけど、その辺がよくわからないのですが、提案させていただきます。

産業課長
作るのはどんどん作っていっても、売っていくための専門的な知識はなかなかないのが実状ですが、どう活用していくのかという大きな課題は抱えているという認識はしています。

西村座長
物は作りました。売ります。でも、最後それによってどういう姿を目指されているのかなということですよね。それで雇用が増えるというのはよく言う話ですが、それによって山の木が使われて管理も

できていって、大台町全体が取り組むことによってすべてが回っていくというような何か絵があると、売る量も変わってくるし、取り組む人たちの意識も変わってくると思うんですよね。

今回、特に部署ごとにお話をされたので、それぞれが繋がっていないなと感じたんですよね。例えば副読本でいうと、じゃあ小学生たちが今の産業課さんがやられている取組みを知っているんだろうか。町の人たちは知っているんだろうか。もしそこに将来の絵みたいなもの、これを取り組むことによって 20 年後の大台町はこんな感じに変わっていくということが共有されていければ、いろんな方たちからアイデアが出てきたり、手伝ったり、自主的な動きが出てくるんじゃないでしょうか。
小野さんのように生協へ売っていけばいいんじゃないかというような提案だとか、私も声掛けするよ、というようなことがおこってくると思うんです。

そういう巻き込みが今回ちょっと感じられなかったな、いいことをやられているし、いいものを作っているのは確かなんですけれども、どう町が絡んで住民の皆さんをどう巻き込んでいくのかなという視点が足りないなと感じました。

石川委員
基本的に年度ごとにＫＰＩの数値目標がどのくらい達成されているのかということを検証するのがこの会議の趣旨だという風に思うんですが、要は、人口減少にどう取り組むのかということだと思いますので、この会議に初めて参加する者からすると、これまでの人口の減少はどういう風になっているのかもう少し詳しい分析について知りたかったなと思います。
出生数が年に 50 人とかは出ていますが、自然増減や転出入が年度ごとにどういう風に動いているのかどういう年代なのかというような基本的なデータがないものですから、その上で過去 3 年間がどうなっていてどういうところをターゲットにやっていくのかというところをもう少し知りたいと思いました。

西村座長
正当なご意見ですね。いかがなんでしょう。
これだけの手を打っていて、実際の人口の増減については自然増減も社会増減もあると思いますが、このことが 3 年くらい経ってどう効いているのかというのは、なかなでませんよね。

事務局
自然減で言いますと死亡が年間約 150 人、出生数が約 50 人ということで、毎年 100 人ずつ減っていまして、ここ 3 年もおおよそ同じような数値かなと思います。
社会減につきましては、東京一極集中の話のところでもありましたが、全国的にみても若い世代が都市部へ都市部へという形ですが、大台町もまさしくそうで、大台町は高校までしか高等教育機関はないんですが、大学へ出ていくタイミングや就職するタイミングで、ほぼほぼ若い世代は外へ出ていきます。転入者 220 人から 230 人くらいだとすると転出者が 260 人から 270 人くらいということで、転出者の方が多くなっていて、転出数がオーバーしているところはほぼ若い世代という状況は、27 年

度に作った人口ビジョンに数字として出てるかと思いますが、それについても改善されていない状況です。傾向として、若い方の総数は減っているのに出ていく割合は変わらないというような状況になっています。

石川委員
転入はどういう形の転入が多いんですか。

事務局
転入の詳しいデータはありませんが、大台町では空き家バンク制度を 24 年度からやっていまして、その空き家バンク制度を利用したり、そうでなくてもいなか暮しをということで越して来られる方も見えます。数はそんなに多くはないですが、結構若い 20 代 30 代の方が越して来られるケースもあります。

辻本企画課長
空き家バンク制度に限ってですが、空き家バンク制度を使って転入された方の数は、24 年度から約 130 人ほどみえます。

西村座長
大台町に魅力を感じて来る方は、大きな数ではないですが確実にあるわけなんですよね。そういう意味で言うと、大台町の特徴を出していくということはそれなりの効果はあるんだろうなということが言えると思うんですよね。

山の木を使った商品を使っていくことによって地域の人たちがそのことに関わりながら山を守り自然を守り永続的な雰囲気を作っていくということも魅力になると思うんですね。インパクトの大きさというのを、ただ山の木を使って商品を作りましたというだけにするのか、それとも町全体のイメージづくりも含めた規模感にしていくのかということも考えると、ちょっと違ってくるのかなと思います。

出ていくのは仕方ないんですよ。ないですから大学が。戻ってくるとか、あとは本当に社会で活躍している人、いろんなことを考えている人たちに、自分の選択として大台町という場所を選びたいと思わせるかどうかですよね。その数で結果的に落ち着いていくような形でいいのかなと思ったときに、人口が増える増えないというのは結果論であって、魅力があるのかどうか、その地域で住んでいる人たちがいきいきしているのかどうかも含めて、そういうことが重要なのではないかと思います。

なかなか指標としてはわかりにくいですが、貴重なご指摘なのでちょっとそういう視点で町としても見ていくといろんな施策がどう反映していくのか見えてくるのかもわかりません。

石川委員
転入と転出の数字の差はあまりないですが、転入については、転勤族の方はあまりいらっしゃらないと思うので、ということはやっぱり野田さんのように魅力を感じて来られた方なのかなと思いますね。

西村座長
昴学園は関係ないんでしょうね。

辻本企画課長
昴の学生は住所を移していないです。

事務局
後は、定年を迎えられて戻ってくる方なども見えます。

石川委員
ということは、大台町の魅力をもっと発信していけば、もっと増えるのかもわかりませんね。

西村座長
空き家バンクは本当に正しいのかという話を少ししたいと思います。変な言い方をして申し訳ないんですが、野田さんはどういう家に住んでいるのでしょうか。
というのは、南伊勢町でも空き家バンクをやっています。確かに、空き家を使ってほしいという気持ちもよくわかるんですが、建坪 20 坪で水回りが汚い家はたくさんあるけれども、いくら若い人でも住みたいですかということなんです。逆に宅地開発したらどうなのかとか、いろんな考え方があってもいいのかなと思っています。

南伊勢町というのは、唯一国立公園の中に家を建てれるかもしれない。というより、もともと人が住んでいるところが国立公園になってしまったんですからね。それを逆手にとって、津波とか地震が来ることも想定しながら、景観のいいところに漁師たちも住めて、なおかつ余力のあるところに他の人たちも来られる町づくりをしたらどうかという話をしているんですよね。今ある場所を逆に更地にしてしまうくらいの覚悟があってもいいんじゃないか。
この町の最大の特徴を満喫しながらいこうと思ったときに、本当に今までの住み方の家を利用するのがいいのかというのも、ひとつ考えようによっては、さっきの魅力を見せながら、大台町へ行きたいなという人たちがどういうライフスタイルをしたいのかという中で、住環境というのを必ずしも空き家バンクにこだわる必要があるのかということも、これからは多少考えてもいいのかなと思いました。

石川委員
愛知県東栄町は、プラネタリウムがあって星がきれいなことで売っていますが、住宅造成をしてるんですよ。住宅を新築すると町が 500 万円を補助していまして、子育て世代が移住してきています。

西村座長
今までの 3 年間の結果を分析しながら見ていくと、大台町の特徴というのが結構見えてくると思うので、それを伸ばしていくような形にすると、今の住環境の話なんかはご参考になるのではと思います。

井上委員
よく知っているお店の方が SUP を趣味でやっているんですが、先日訪ねた時に、うち（昴学園高校）の子たちが野田さんのところで SUP をしたという話をしたんですね。その時、隣にいた若い女の子が、すぐに大台町のことをスマートフォンで調べ始めたんです。そこで出てきたかき氷屋さんに行きたいとかいうことで、一歩踏み入って調べてみると、たくさん魅力があるということがわかるんですよね。今の時代一歩調べるというところまでくるといいんですが、まず知ってもらうための第一歩ということがすごく難しいと思っていますので、広報活動はどのように展開しているのかご質問させて頂きたいと思います。

辻本企画課長
まずは町内向けとしては、広報紙、町 HP、行政チャンネルなどになりますし、町外向けには、町の HP や先ほど紹介しました情報発信専用の HP ということになります。
また、それ以外にも一昨年度より総務省の地域おこし協力隊という制度がございますが、そちらの制度を活用して情報発信を専門に活動する協力隊員を配置いたしました。情報を発信する手段として、ドローンを使って大台町内の風景のいいところや四季の移り変わりもありますので四季を通して町の魅力を発信したり、町でやっているイベントの情報を、現地へ出向いて動画や画像でリアルタイムに発信するなど、そんな活動をして頂いております。

確かに、先生言われるように情報発信不足ということもご指摘されたりもします。若い方は IT を活用して情報収集することもできますが、そういう方ばかりではありませんので、若い方から高齢者まで全ての方にうまく情報が発信できるようにしていくことが必要であると思っているところです。

井上委員
学校も県内に広く知ってもらうという広報活動が一番難しいと思っています。小規模の学校が集まる会議がありまして、それぞれの学校も HP を更新したり、また、説明を聞きたいという人には魅力を伝えることができますが、本当に知らない方が自ら一歩動くまでにどうしたらいいのかということを話していました。我々も同じ悩みなんです。

水産高校の先生のお話ですが、何かで水産高校の取組みをテレビで放送してもらったら（HP や資料などその他の情報媒体よりも）、一番問い合わせが多かったということで一定効果あるのかなと思いました。

これだけ魅力がある自然豊かなところで、うちの子どもたちも数値とかで表せることではないんですが、小中学校の時に不登校を経験した子どもたちがたくさんいて、その子たちがあれだけ健全に毎日

登校できるということは、もちろん寮もありますが、この自然がそうさせてくれているというのをすごく実感しています。そういうことをどう発信していったらいいのか、ヒントをもらえたらなということと、発信しないともったいないと思います。

辻本企画課長
昴学園も以前、学校の情報を発信する DVD を作って県内の中学校を周られたと聞いたんですが、それが非常に効果的で、一時おこしていた定員割れを回避できたという話も聞かせてもらっているので、結構映像で伝えるというのは効果的なんですかね。

井上委員
知らない人に知ってもらうことがまず大事だと思いますので、微力ながら広報活動をしようと思います。

西村座長
そういうみなさんの口コミも結構重要だと思うし、体験談を語ってもらうことも需要なので、町の人や町を出ていった人がひとつの広報媒体になるというのはいいですよね。あとは、不特定多数の人に発信するとか、SUP をやっている人に情報発信するのはなくはないですが、みんなやっているんですよね。

先生のおっしゃったことで魅力的だったのは、話を聞いた女の子がすぐに調べるということ。調べた時に、その通りいいねって思えるコンテンツかっていうのは結構重要なんですよね。今回企画の方で発信する人を専門に雇ったというのは非常に大きいと思うし、ちょっと逆説的なことをいいますが、発信はもちろんやるけれども、むしろコンテンツの充実にかけた方がいいんじゃないかなと思うんですね。
１回でも引っかかって見た人が、これすごいと思ってぐっとのめり込むような、例えば HP でも表紙見たときに印象って決まっちゃうんですよね。最近、南伊勢町が表紙を変えてしまってびっくりしたんですよ。昨日も三重大の HP 見たら今までと全く違って、画面一面に何か出てくるようになっていました。
それがいいかどうか別にしても、本当にここが一番というところを、自信持ちながら堂々と磨き上げていく。一点だけでも光っているところ、一点抜けできるところを作っていけば、世界中を考えたら 1 万人が見ても結構な人数が来ると思いますよ。そういうことをやるんだったらやっぱり一番尖っているのは何で、その尖っているものをスパッと見せるような印象のあるような画像なのか映像なのか、さっきのドローンなんかもいいと思うんですよね。絶対負けないものがあると思いますから。
そういうコンテンツのクオリティーを維持していく、それがやっぱり大台町を選んで来たいという人たちを繋いでいくためのカギになってくるような気がします。ですからある面、今後はどんどんこだわった方がいいと思うんです。
大台町のいいところを口酸っぱくでもいいし、嫌というほどでもやって頂いて、ひとつひとつのことをこなすようにやっていくんではなくて、それは一回どういう風に研ぎ澄まさせているのか。大台町

の魅力を高めていけるのかということを、どこかで町の役場のみなさんが意識の中にあると、そういう見方で物も作るし、売っていくし、説明もすると思うんですよね。

先生のおっしゃることはよくわかって、一歩を踏み出させるというのは非常に難しいんですけれども、飲み屋でちょっと言うと絶対効果ありますよ。せっかく委員になったんだから、そういう口コミ活動もやっていきましょう。ぼくも結構やってますよ。
全国で講演やってますから、その場でこんな町があるというスライド一枚入れるのもいいですよ。大台町を語るこの一枚というのをぼくに送ってくれれば、僕も伝道師になりますよ。という口コミのような材料をみんなに与えられたらどうですか。

高橋委員
去年７月から三瀬谷に赴任しました。もともとは志摩の出身で今は津から通っていますが、やはりこの地区は、非常に可能性は秘めているなというふうに感じています。自然は豊かですし、水はきれいですし、住んでいる人たちがいかにも幸せそうに暮らしているとも思います。
人口の流出は、大学になったら出ていくのは当たり前で、いかにその後、大台町に戻ってきたいなと思ってもらえるか、よそから住んでもらえるかだと常に思っています。そのためには、子どものころから大台町を満喫する子たちとか、魅力を全部知っている子たちを作っていったらいいのかなと思いますので、今日は、高校の校長先生にご出席いただいてますが、小中学校の校長先生にも共有して頂ければいいのかなと思います。

今の子どもってイメージとしては、学校から帰ってきたら特にクラブもあまりできない環境になってきていますし、ゲームをして家の中で過ごすことが多いのかなと思うんですが、やはり、自然で遊んだり、虫を取ったり、怖いところへ行ったり、そういう体験をしたことは大人になっても覚えてますし、例えば仕事で東京へ行っても、大台町のお土産を持って行ったり、県外の大学に行っても逆に大台町へ遊びに来いよとかいうような情報の発信者になりうるのではないかと思います。

すでに実践されているかもわかりませんが、小中高なんかで大台町でのビジネスコンテストのように、大台町でどんな産業なり活動なりができるかというようなことを、子どものときから考えるような取り組みもいいのではないかと思います。

銀行は、地方創生ということにもいろいろ取り組んでいまして、宮川物産さんや宮川森林組合さんの商品を商談会なり商品の案内や販促のお手伝いもさせて頂いてます。ある程度の販路をつくると生産なり販売網なりを強化しないといけないんですが、残念ながら今いい方向で一生懸命して頂いていることのサポートをする体制とか、発信するＰＲとかがやはり弱いと感じます。
それは私どもも当然その一役を担わなければいけないと思っていますが、ゆず作りますと言っても、目標が何へクタールとなっていますが、何年も続くような体制をどうやって作っていくんだとか、そのためには、生産する宮川物産の体制とかいろいろありますでしょうし、宮川森林組合さんでも高齢の森さんという方がチーズを作ってみえますが、森さんの後、ずっと続けていく体制や人の広がりと

いうのも必要なんじゃないかなと思います。
思い切って外部に、パティシエなり、ショコラティエなり、シェフなりに来てもらうような求人の仕方や情報発信など、いろいろやれることはいっぱいあるかなと思います。

西村座長
子どもたちを巻き込んでいくこと、大台町の魅力を伝えることで言えば、副読本は、若干、今の動きがついてないなと思ったんで、柚子もえごまも米も作ってますよねというところに、例えば小学生が農作業体験みたいな感覚で入っていって、町の動きを一緒に感じ取ってそれを記憶にしておくと、あの頃やっていたのがこうなったのかと繋がっていくんですよね。そうすると、どんどん愛着とか、逆に言うと自分で何かできるかもしれないということを考える可能性もありますよね。
おっしゃたように小中高の校長先生も巻き込みながら、どうやって地域の魅力を学校に落としていくかということも考えてもいいかもしれないですよね。

ゆずの後継者とか、いろいろね、これは産業課が考えていくしかないと思うんですけど、高知県なんかは、放っておいてもお金になる仕組みができているので、軽トラ一杯持っていけば 10 万円 20 万円とかになる仕組みが出来上がってるんで、自分の土地に樹を植えとけばその一本一本が財産だと思っているんですよね。そういう仕組みを作ることが宮川物産の役割で、農業者はそれに合うものを作るだけなので、販路をキープすることは大丈夫だと思うんですけど、どれだけ処理できるかということで目安さえ立てれば、あとは財産をどう動かしていくかという話になるだけの気もします。という仕組みづくりを今やっているんだと思うんでよろしくお願いします。

高橋委員
健康づくりでがんの検診というのがありましたが、それも大事ですけれども、運動の機会を作るとか、それに㈱Verde さんとかいろんな団体さんとかと体験でできるようなものもあってもいいのではと思います。

野田委員
毎年この会議で言わせてもらっていますが、移住して 5 年目になります。大台町での暮らしは、私と旦那さん 2 人ですが、丸 4 年経っても、すごく満足だしいい町だなって思うし、たぶん来年も再来年も 10 年後も思うだろうなという感じです。
さっき西村先生からどんな家で住んでいるのか聞かれたのでその話からさせて頂きますが、私は、豊田市のマンションを住まいとして暮らしていました。旦那さんはバイクの整備、私は隙あらばスポーツジムに行って体を鍛えることを趣味としていました。

ある時、バイク整備の時に出るエンジン音で隣の人から注意されるということが何回かあって、それが大きなきっかけではなかったんですが、もともと自然の近くで住みたいというところもあったので、やっぱり一軒家が欲しいねというところからスタートしました。
旦那さんはバイクの整備ができる広いスペースを、私は家の中に体育館を作れるくらい広い家を希望

していたので、というと都会より田舎の方がいいんじゃないかという話になりました。最初は岐阜県や長野県など愛知から近いところで探していましたが、なかなかいい家が見つからず、三重もということになりました。

そのときに不動産屋さんを頼りにしていましたが、なんでかというと、最初に岐阜や長野の家を空き家バンクで見たときに、行政さんが出してしる情報は信頼はあるんですが、すぐ住める家があんまりなかったんです。旦那さんが 34 歳、私が 35 歳のいわゆる働き盛りに、パッと引っ越しをしてすぐに住んですぐに仕事をするというスタートができない家というのが多かったんですね。

だったら、不動産の方がいいかなということでしたが、そうすると不動産屋の方はリフォームがしてあってきれいで庭もあってガレージも造れそうな家というのがいくつもありました。その時に大台町だけじゃなくて、せっかく三重へ行くんだから、大台町だったり、南伊勢町だったり、大紀町だったり、不動産屋さんが取り扱っている家を全部みようということになりました。
最終は大台町へ来たんですが、外から見ると町の境界線ってないんですね。大台町だから住みたいと思って来たわけじゃなくて、たまたま私たちにとって、いい家といい自然環境があって、ここでだったら暮らしていけるかなというのがあったので、今の生活があるのかなということなんです。

最初に西村先生に質問をと言われましたのでお聞きしますが、商品づくりの中で尾鷲のマグロと一緒に商品を作っているという話が谷室長からありました。行政さんが、ほかの市町さんと連携して商品作りという話を初めて聞いたので、何か大台町だけじゃなくていいのかなって思いました。
観光とかやってるとやっぱり外から来る人って、別に奥伊勢大台町だけに遊びに来るわけじゃなくて、伊勢から大台町とか、となりの大紀町に泊まりに来て大台町に遊びに来るという方もいるので、大台町だけで全部って思わなくていいのかなと思っている中で、こういうお話だったので、他に実はここととここで連携していて、この事業をしてるんだよということがあったらちょっと知りたいなと思います。

谷産業室長
確かに、産業室の取り組みについても、ここだけで完結するようなやり方で最終までいけるのかなと疑問に思う部分はあります。ある程度は売れると思いますが、それ以上伸ばしていくと考えたときに、いろんなところとコラボしていくことで、もっともっと広がるんじゃないかと思います。

例えば、町外との話ではありませんが、宮川森林組合ではアロマを作っていて、宮川物産では柚子果汁を絞っています。物産は柚子の皮を産廃として処理していたけれども、森林組合で物産が産廃する皮からをオイルを絞るようにすれば、物産は産廃しなくてよくなるし、山へ肥料として捨てればこちらとしてはゼロになるというようなこともあります。

他には、長野県で生ハムの燻製をしているところがあるということで、それなら長野県にもない樹種もあるのではと思ったので、連絡を取ってみると、例えばこういう樹種はないんで一回送って下さい

となったりもします。
観光についても東京へ行ったときに、インバウンドこれから絶対でてくるよ、なので一回大台町と何かできないのかなという話をもらったことがありました。野田さんにも行ってもらいましたが、そういう部分でも大台町の中だけで考えていくということ自身が厳しいかな、そういう中で動かしていく方が、現実的かなと僕自身は思っています。

野田委員
昴の校長先生も言われたように情報発信がすごく難しいなと思っています。
観光は、知ってもらって来てもらって楽しんでもらうという三本柱がすごく大事だなって思いますが、そこで知ってもらうっていう労力はお金も含めてすごくかかると思うんですよね。
そこを小さく大台町だけでやるのではなくて、いろんな地域で大きくできればすごく楽なのになと最近思ったんで、商品づくりも具体的に大台町産のこれなんですというだけよりは、尾鷲のマグロと大台町というのがあると尾鷲の力も借りながら、大台町のものが売れる。観光も同じで、伊勢神宮に行って奥伊勢にも来るというようなことをやっていかなければいけないのかなと、なんとなく思っています。

西村座長
その通りだと思います。そうやっていろんなコラボというか組み合わせをやっていこうということを普通に発想されることは非常にいいと思います。

それは、大台町というものを崩していくということではなくて、大台町って一旦何の特徴を持った町なんだろうということをはっきりさえしておけば、捨てる覚悟も必要だと思うんですよね。何でもかんでも全部揃えるということは、水道とかの基本インフラは別として、観光とかっていうのは全部整える必要はないんです。

逆に光るものが一本立ってれば、光るものが立っているほかの人たちとすぐにコラボができるんです。世界中からみて大台町に尖がっているものがあれば、それで勝ちなんです。あとはそれと組めるところはいっぱいあるので、さっきの話じゃないですが、勝手に世田谷の人がなぜか大台町の話をたくさんしてくれるかも知れない。この化粧品を作って、このアロマ使ってすごくいいアロマテラピーのサロンができたとすれば、これ大台町からきているんだよねということになる。研ぎ澄まさせて欲しいというのは、そういう意味なんです。
そこにきちんとニュートラルな感じでの一番同士のくっつけ方みたいなことで、いろんなパートナーを見つけていけばいんじゃないですかね。

地域内も、遠いところとのコラボも、近くとの場合もありますが、近くで言えば、最近ちょっとやっているのがサイクリングです。今三重大で動かそうとしているんですけど、伊勢から熊野までというのが本当にいい場所なので、そういうコースを今後整備していくということになると、大台も一つの経由地になるんですよね。その時に、来た人たちの頭に、大台町はこれということがぐっと刷り込ま

れたら、大台も伊勢も熊野も楽しめる。伊勢へ来た時に、またここに寄ってみようとなるんですよね。

あまり、全てをやらなければならないというところから解きほぐして、きちんと自分たちの確立した一番の守るべきものを伸ばすということだけをしっかりとやっていければよくて、捨てるものは捨てて、足りないものは自分でマネジメントしながら他の人を頼ればいいんじゃないですか。

家のことは結構重要ですので、野田さんの話は参考にしてほしいですね。ライフスタイルを実現するために住む場所を選びたいという人もいるわけです。こういう家があるから住みませんかということを、田舎暮らしイコール田舎の古い家という風に、こっちが勝手に持っている先入観にはめ込んでいくのではなくてね。
そろそろ子どもも楽にしてあげればいいんじゃないですか。そこはこだわらなくていいと思います。極端な話、更地にしてちょっと広めの家を建てれるようにすれば、逆に野田さんくらいの世代だったら今から家を立ててもローン組んで返せる人たちが来るかもしれない。今からは働き方もどんどん変わっていくので、ここから勤め先に通える場所を探さなくてもいい人が来るかもしれません。
だとしたら、大台町でできるライフスタイルを、住空間も含めた提示がきちんとできるというのもいいのかもしれない。10 年も 20 年もここでいいなと思って暮らしてくれる人がいる現実があることにもっと自信を持った方がいいと思います。

寺本委員
松阪のハローワークへは去年異動してきました。
空き家バンクの利用に条件はあるんでしょうか。

辻本企画課長
住所を移していただくことについては条件としてありますが、勤務地についての条件はありません。

寺本委員
松阪管内で見ると、大台町への就職というのはなかなか厳しい地域になりますが、大台町から松阪までは通勤が可能かなと思いますので、大台町へ住んで松阪など町外へ通う場合に何か補助ができればいいのかなと思います。

西村座長
多気なんかは、人の確保ができないということでなかなかうまくいかないこともありますが、工場を立地したいという企業は結構あります。私は県の行政にも関わっていますが、実は景気は動いていて、津より上の工業団地というのはいっぱいいっぱいになってますが、雇用が確保できれば行きたいという企業の意欲は非常に高い。ここからの通勤圏ということも何か市町と組みながら考えていけば、なくはないと思います。ちょっとこれはすみません。別の情報として話をさせて頂きました。

寺本委員
確かに、有効求人倍率は高いんですが、就職件数は伸びていないですよ。募集はされていますが、良質求人は少ない。津から北に行けばまた違いますけど。

西村座長
まだ表に出てこない予備調査では、ここでの高校生の就職の確保ができるかどうかということで躊躇する企業が結構あるという話なんですよ。特にメーカー系の投資意欲が結構高くて、ちょっと多気までは遠いかなということもありますが、一方で、実はいい話が進んでいるんだよねという話も聞きます。一番のネックは、高卒者の人員確保が本当にできるかということです。という風に考えていくと、この地域の子どもたちが高校卒業後に就職することもかなり真面目に考えてもいいのかなと思います。
大学の先生がいうと怒られますが、本当に大学へ行くことは意味があるのか、逆に本当に力をつけるんだったら、夜間の大学をつくってもいいのかなとも思います。高卒で就職して、働きながら夜はしっかりマネジメントの事を教えてあげる。そうやって早い段階からこの地域で生き抜くということを、就職を通して考えてあげるということがあってもいいのかもしれません。

遠藤委員
会議が3年続いてきまして、野菜プロジェクトですとか、柚子とかえごまとかが今まで遊休地だったところにも栽培されていたり、普段全然人がいなかったところにも野菜を作っている姿が見えたりだとか、農業をしている者としては、すごく張り合いがあって仲間ができたような気分で、そういう面でもいいなと思っています。
お米もつぶら米ということでブランド化して学校の給食でも使ってもらったりしていて、今までは違ったけど、今は大台町で生産されたお米が食べられていいなということもありますし、すごく雰囲気としてはいいなと思っています。

その中で、私としては、専業農家としてどうやって生きていくかということでずっと取り組んでいるわけなんですが、3、4年位前から、農薬を使わずに苺が作れないかと思って取り組み始めています。これまでは、専業農家として就農の相談を受けたとしたら、条件的に不利な面が多い大台町では厳しいよと言わざるを得ないなと思っていたんですが、農薬を使わずに苺づくりをはじめたら、大台町だからうまくいったなと思う点がありました。害虫には今も悩まされていますし、課題も色々とあるんですが、病気の件が楽にクリアできたこととか、味もすごくいいと言ってもらえることとかは、大台町だからこそうまくできたということで、これが広がっていけばいいなと逆に思ってます。

苺だったらそんなに面積がなくても結構金額があがりますので、大台町内で就農したい、それで生活していきたいと方にも薦められますし、農薬を使わずにいちごが作れるんだということを知って、じゃあ大台町に来たいという人もでてくるかもしないし、会議をずっと聞いてましてそういうのを絡めながらいい未来が開けるのではないかと今思っているところです。
農薬使ってない苺って全国的にもそんなにないので、大台町に来たらそういうものが手に入ると思っ

てもらえたらいいなと思います。
また生産者も増えてきたら販路も新しく手に入れられるし、流通もしやすくなるので、広げていけたらなと思いながら、いろいろ課題はありますが取り組んでいるところです。

話変わりますが、質問というか提案なんですけども、参加者を募集している婚活イベントのチラシを見ましたが、男性と女性で参加費が違うのはなんでかなと、どこでもそうで慣例かなと思うんですけど無くしもいい慣例かなと思います。その辺を一緒にすることで、大台町はよその町と違うなと思っていただけるのではないでしょうか。

西村座長
するどい指摘だと思いますね。そういう固定概念を変えていくというのも大きいですね。

それと無農薬の苺というのはなかなかすごいですね。大台町だからできる大台町の最大の特徴を活かした農業に特化していくということですよね。
昔から農業をやっている方が少ないとかって、さみしがっていましたよね。その雰囲気が変わってきたというは大きいし、その中で大台町らしさを出していくというのは、そこまで淘汰してきたからようやく考えられるようになったということですよね。
昔やっていたこと、田んぼやってたらいいよねという農業では成り立たない、だから柚子をやったりして今の時代に合わせた大台町に一番いいものってなんだろうっていうことをしっかり考えられる時期にきたのかなと。そういうことで考えてみると、なんかヒントが見つかってきたよねというお話のように聞こえたんですね。

是非ともやってほしいですね。
町としてもしっかり見守って頂いて、支援が必要ならして頂いて、それを足場にして無農薬の苺が食べられるまち大台町として、ちょうどエコパークということも絡んで日本一水がきれいなところとかそういうイメージと重なりますし、これはやっぱり、大台町ってなんだといったときに日本中からみたときに一言で言えるようなものになってくるんじゃないですかね。是非ともやってほしいですね。

ちょっとだけ応援すると、紀北で今、干し芋を作り始めてるんですよ。日本中どこでも干し芋はありますが、潮風に晒してこの地域しかできない乾かし方をした干し芋を作ってみたらものすごく味が出たと言っているので、ここでしか出来ないものを作って名前を付けろって言ったんですよね。
そこの風土でしかできない干し芋、風の舞い方とか潮の付き方とかがあると思うので、そこに特化してそれをする人たちがそこで生きれるという形で農業を最適化していくということを、規模も含めてやっていくということは、今だから出来るのかなと思います。

苺の話は非常にいいですね。ちょっと期待してみていたいですね。
いつも鋭いご意見を頂くんで参考になると思いますね。
少なくとも婚活はおんなじ値段にするということで。

石川委員
大台町で無農薬の苺ができるのはどうしてなんでしょうか。

遠藤委員
夏場の温度が高いと病気が出やすいんですが、山間部なのである程度気温が下がってくれることで防げてるんじゃないかと思っています。

西村座長
(株)デアルケの HP を通すとよく売れるので、紀北のきほく棒を売ろうという話も昨日決まったところです。
でも、そういうやり方もあるし、温めるというのも重要で、3 年くらいじっくりやって本物を作ってからしっかりやるのもいいと思います。今あんまり焦らなくていいのかなとも思います。

森本委員
実は今日ある方が役場へ来て頂いておりまして、研修担当の職員に大台町の特徴を 3 つ挙げよと言われました。自然とお茶とユネスコエコパークとの答えに対して、まあユネスコエコパークは特徴だろうが、自然やお茶は、大台町だけの特徴と言えるのかと返されたときに、はたと困りました。その他にも、どういう人を育てたいかという質問を投げかけられるなど、その方とのやり取りは、久しぶりに気合の入った内容で、延々と昼も食べずに質問攻めにあって、このままいったら彼は夕食も食べられないのではと思って、こちらへ参りました。

ここでも委員の皆さんからの熱いお話を聞かせて頂きましたが、3 分の 1 から半分くらいが同じ話だったように思います。大台の町は、これまでいろいろ挑戦したように思いますが、挑戦したがゆえに大きな問題もいっぱい抱えて大変な状態になっています。しかしそれも逆に面白いところではあると思います。
今、課長陣は、まじめに取り組んでいますし、なかなかこれだけのスタッフが揃うところはないというのが大台町へ来て 3 か月余りの感想です。飯南飯高は松阪に合併しましたが、その状況は長年見てきて大台町へ来ましたが、大台の町というのは、今申し上げたように非常に面白い地域で、国県の事業を積極的に活用した結果、厳しい財政となっていますが、飯高飯南と比べてはるかに移住で他所の方がみえるし、元気度は高いと思います。

今後、この町をどうしていくかということを、私自身、西村先生と皆さんのご意見を聞かせて頂きまして、今から気合を入れて、24 時間議論するくらいの気合の中でやっていかないといけないなと、痛感しています。かつて私が若い時には、ごはんも食べずに役所でやってたことを懐かしく思っていますが、それくらいの気合をいれながらやっていかないと、極端な話、我々の仕事というのは、甘い体質にどっぷりと浸かってしまうという感覚を忘れてはならないと思っています。このことを、みなさんからご指摘も頂きご協力も頂きたい。

今日は議員もみえますが、今後は議会でも政策提言もして頂きたいとお願いしています。

おもてなしのまちづくりをやるということで、原点に戻って挨拶などの基本からということでやっています。来ていただいた方々に、ちょっと違うな大台町は、と言われるように一歩一歩積み上げていくということが皆さんの期待にも応えることにもなると思いますし、町民の皆さんの気持ちを受け入れられる役場の職員になっていくんじゃないかなと思ってます。
本音を言うと、一杯飲んで、このメンバーといろんな議論をしてもらうともっと本音が出るのではないかと思います。そういう機会が作れるんでしたら是非お願いします。今課題の昴高校をどうするか、フォレストピアも然りです。この２、３年の内に、この大台の町ここにありという町になっていけるようないい意見も出てくるのではないかと思います。
本当に今日はいいご意見を頂いきましたので、課長のみなさんがどのように認識されたかということも聞かせてもらおうと思います。

西村座長
皆さんまだまだ言いたいこともあると思います。大台町の事をしっかりと考えて頂いている方々ですし、いろんな知見を持たれていますし、役場が全てをやらなければいけないということもないと思います。捨てるものは捨てて、頼るものは頼って、それで副町長がおっしゃったように、ここに大台ありきというものは何だろうということを作っていくということに対して気合を持ってやって頂ければいいのかなと思います。
その時に、町民のみなさん、町に関わるみなさん、みんなが協力するんだと思いますし、遠藤さんみたいに勝手に作っちゃいますからね。それはすごいことですよ。やっぱり大台を知っているからですよね。野田さんもそうだと思います。相当大台町の事を知り尽くしていると思います。本当の良さというのは、もしかしたら野田さんの方がよく分かっているということもあるかも知れませんので、そういう力を借りたらどうですかね。
ですから機会があれば副町長のおごりじゃないですけどね、みんなで一杯飲みながらやるというのもいいじゃないですかね。大台のことを考えるということで、年数を重ねてきてこの会議も非常にいいものになってきていますし、本当に個々のことに対して一生懸命ご努力されてみえるのがよくみえました。肩の力抜いてもいいですよ、そういう真面目な方は。そうやって柔軟になるといろいろと人やモノのつながりも見えてくると思います。
今までの経験とその実直な動き、これは間違いないので、その上で肩の力抜いて見えるものが何かあると思うし、そこに大台はどうするのかということをみなさんで語って頂く中に、住民のみなさんの意見も聞いてみたらどうでしょう。

人口が減ることがどうなんだということもありますが、いいじゃないですか。毎年 50 人生まれるわけですから。50 人×80 年で 4000 人くらいの町を目指して、逆に言うとここまで減ったから出来る農業もあるかも知れないし、ここまで減ったからできる移住の仕方もあるかも知れない。それを受け入れた中で、一番いいものをどうしていこうかということを考えればいい。ただ単に人を減らすのを止めましょうということにあくせくして物事を間違えると嫌なんで、そこは大事なものは何かという

ことをしっかりと考えて、みんながここにいてわくわくすればいいんですよ。そういう意味でまた一年頑張って頂ければいいと思います。

企画課長
西村先生、進行ありがとうございました。
本日委員の皆さんからいろんなご意見やご提案、またご指摘も頂きました。今一度頂いた意見を参考にして、事業の進捗の管理、あるいは見直しを行うなどして、戦略に掲げた目標達成に向け、取り組んでいきたいと考えておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

森本副町長
長時間本当にありがとうございました。

これまでの私の反省ですが、地域の良さを語れなかった自分にも、人口減少の原因があったのかなと思います。本当に楽しそうにこの地域で生き生きと暮らしている姿を孫たちに見せておかないと、いくらこの地域に残ってほしいと語っても難しいと思いますし、ましてや他人さんがこの地域に来てくれるわけがないと考えるようになりました。

私が、職員向けの掲示板ということで、大森イズム第１号を書かせて頂くことになりましたが、そのタイトルについては、女性の職員が「TEAM おおだい」と付けてくれました。TEAM おおだいということは、ひとつの目標に向かって一生懸命走るということで、そういうチームで頑張ってやっていかないといけないなと思っています。そういう意味でいろいろ経験豊富なみなさんにこの大台町の町にさらに関わって頂いて、そして共に関わった大台の町が、非常にいい町になったなと共感してもらえるようにしていきたいと思います。そのためには、皆さんにも共に汗をかいてもらいたいということもお願いを申し上げ、今日のお礼とさせて頂きます。
本日は長時間にわたりありがとうございました。